



## ひょうすんぼの雨宿り

私がまだ小さい頃、野首の半兵衛さんというおじいさんから聞いた話です。

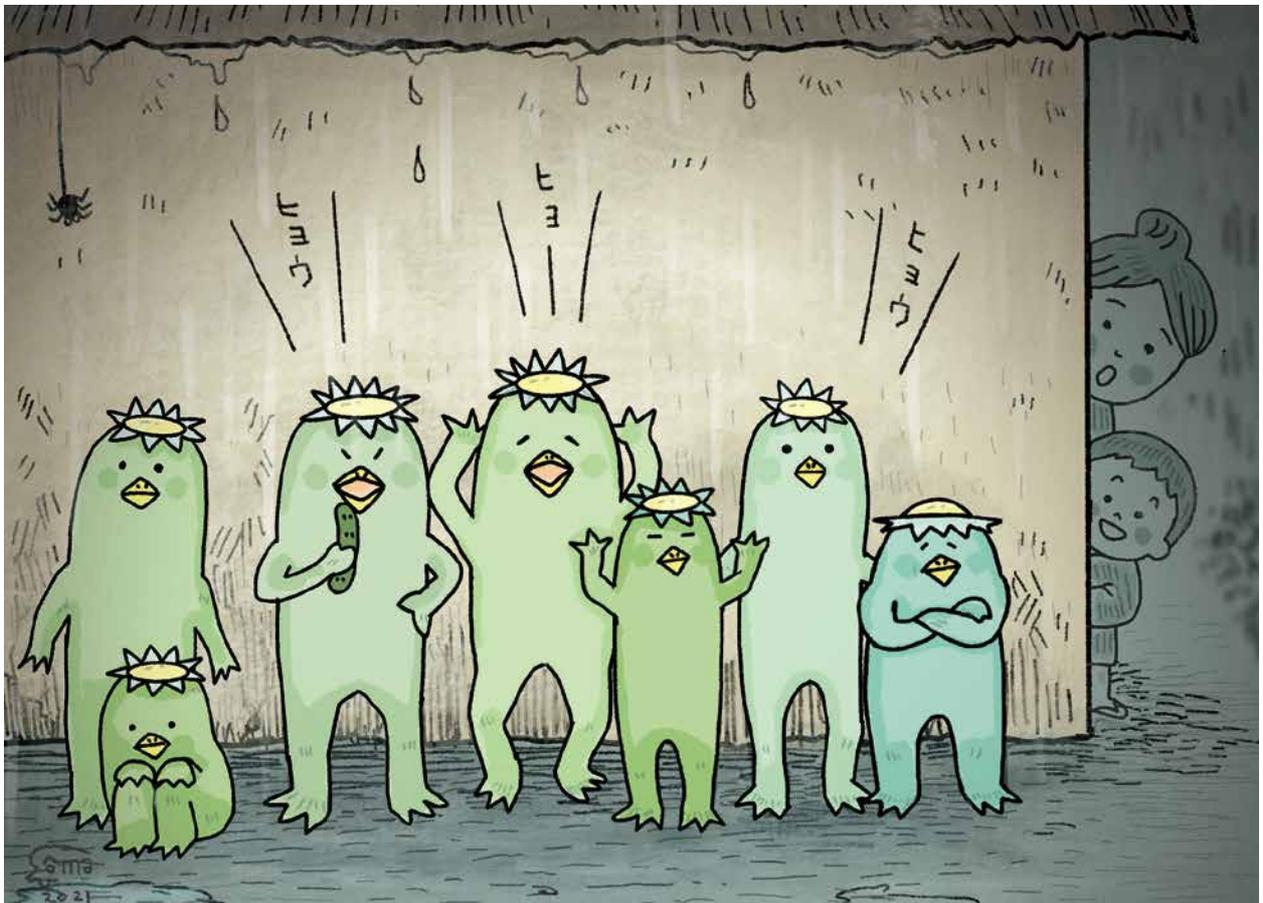
ある年の夏の雨がしょぼしょぼ降る、大変むし暑い晩のことです。半兵衛さんは、ふと妙な物音で目が覚めました。

「はてな、何だろう」とぶつぶついいながら、床から起きあがり、土間の方へ歩いていきました。入口の戸をそっと開いて見ますと、どうしたことでしょう。軒下にはたくさんの「ひょうすんぼ」がずらりと並んでいるのです。よく見るとどうも雨宿りをしている様子なのです。半兵衛さんはびっくりしましたが、息をころし、物音をたてないように、なおもじーっと見ていますと「ひょうすんぼ」たちは、何やらガヤガヤとさわぎたてながら時々「ヒョウ、ヒョウ」と鳴いているのです。

こんな様子を初めて見た半兵衛さんは、とても物珍しく、時のたつのも忘れて見入っていました。

やがて、降っていた雨が小止みになると、今までさわいでいた「ひょうすんぼ」たちは、思い思いに飛んだり、はねたりしながら宮田川の方へとおりていくのです。その様子がとても可愛ゆく愉快なので、半兵衛さんはこの「ひょうすんぼ」がすっかり気に入ってしまいました。

ところが、次の雨の日の夜も、又、その次の雨の





夜も、半兵衛さんの家の軒下では雨宿りする「ひょうすんぼ」の可愛い姿が見られました。

そのうち、このことが、近所の人々の評判になり、雨の夜になると半兵衛さんの家には可愛い「ひょうすんぼ」の姿を一目見ようと、大人や子どもなどたくさんの人たちがおしかけてきたということです。半兵衛さんから聞いたところでは、「ひょうすんぼ」は春のひがんから川に下り、秋のひがんまでに山にのぼっていくということで、多分その行き帰りに、にわか雨にあった「ひょうすんぼ」が、半兵衛さんの家の軒下をかりていたのだらうということでした。時の流れは早く、農業高校寄宿舎の運動場の中程に建っていた半兵衛さんの家は、今は見る事ができませんが、私の頭の中には、今でも半兵衛さんの古びた家と、半兵衛さんの面影が焼きつき、なつかしく思い出されます。

私も姉弟は、この話をあきませず、半兵衛じいさんからいくども、いくども聞いたものでした。

(採話：脇地区 浦力ネズル)



# たかなべ 伝・伝 Returns

について

高鍋町教育委員会では、1986年（昭和61年）から1996年（平成8年）までの約10年間にわたって高鍋の地で、昔から人々に語り継がれてきた民話・伝説や物語、加えて風俗や習慣などについて収集・記録する事業を行いました。

かなべ風俗・風習「たかなべ追憶」として第6集まで刊行され、それらを合本として発刊しましたのが「たかなべ伝」です。

実際の収集活動にあたっていただいたのは、高齢者のボランティアグループ「ふるさとを伝える会」の皆様です。その収集活動においては、故老のご家庭や地区をたずね歩き、話を聞きながら記録を取り、その後の整理・分類など大変なご苦労があったそうです。

このたび、町制施行120周年を記念し、「たかなべ伝」所収の昔話をご紹介させていただきます。先人の残した物語にふれるなかで、ふるさとの再発見がなされ、さらには町民の皆様が歴史を未来につなぎながら、高鍋町の「懐かしい未来」を思い描くきっかけになればという願いからの企画でございます。

その成果は「たかなべむかしばなし（第1〜3集）」、「たかなべ戦中戦後の体験集」「た

まずは、心温まるイラストとともに、高鍋の昔話を十分に楽しんでいただければありがたいと存じます。  
(高鍋町教育委員会・社会教育課)

定期的に発行します  
保存してね！

